

辛島恵美子教授 退職記念特集

[A Special Issue in Honor of Professor Emiko KANOSHIMA]



関西大学 社会安全学部・社会安全研究科
教授 辛島 恵美子
専門分野 安全学構築研究

(学歴)

1965年4月1日	女子学院高等学校	入学
1968年3月31日	女子学院高等学校	卒業
1968年4月1日	東京薬科大学薬学部薬学科	入学
1972年3月31日	東京薬科大学薬学部薬学科	卒業
1991年4月1日	東京大学大学院法学政治学研究科基礎法学専攻修士課程	入学
1993年3月31日	東京大学大学院法学政治学研究科基礎法学専攻修士課程	修了
1994年4月1日	東京大学大学院工学研究科学際工学専攻博士課程	入学
1997年3月31日	東京大学大学院工学研究科学際工学専攻博士課程	所定単位修得後退学

(学位及び論題)

1993年3月31日	修士（法学）東京大学 「environmental risk」問題における科学的不確実性と法的判断 —米国社会における遺伝子加工技術の利用をめぐるルールづくりから
------------	---

(職歴)

1972年4月1日	三菱化成工業株式会社（本社特許部）入社
1978年3月31日	三菱化成工業株式会社 退社
1979年2月1日	三井情報開発株式会社総合研究所嘱託研究員採用 科学技術政策研究
1980年3月1日	三井情報開発株式会社総合研究所研究員入社 科学技術政策研究
1987年7月31日	三井情報開発株式会社総合研究所 退社
1987年8月1日	安全学研究所 主宰
2004年10月	NPO 法人安全学研究所 理事（～現在に至る）
1986年4月1日	財団法人生存科学研究所 研究員（～2004年3月）
2005年5月	財団法人生存科学研究所 評議員（～現在に至る）
2010年4月1日	関西大学 社会安全学部 教授（～2017年3月31日）
2017年4月1日	関西大学 社会安全学部 特別契約教授（～2020年3月31日）

(免許・資格等の名称)

1972年3月	中学・高等学校教員免許（理科、保健体育）
1972年5月	薬剤師免許
1972年5月	臨床検査技師免許

研 究 業 績

著書・学術論文の名称	単著・共著の別	発行・発表の年月	発行所・発表雑誌・発表学会の名称(巻)	最初と最後のページ(共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ)	
(学術著書)					
1	バイオインダストリー——その可能性を探る	共著	1982年3月	財通商産業調査会出版, 工業技術院総務部技術調査課編	277-319.
2	安全学索隠——安全の意味と組織	単著	1986年5月	八千代出版	全346頁
3	遺伝子工学生物の野外試験——バイオテクノロジーの新しい展開	監訳・共訳	1990年10月	東京書籍	全317頁
4	安全学入門シリーズ1:薬と食べ物と水	単著	2007年5月	理工図書	全169頁
5	安全関連用語と基本用語の解説:安全問題	単著	2008年1月	丸善株式会社, リスク学用語小辞典(日本リスク研究会編)	299-305.
6	安全学の視点	共著	2010年	産経新聞出版, 関西大学社会安全学部編『安全・安心を科学する』	25-28.
7	科学技術文明と安全——safety, security, holonomy——	単著	2010年	法蔵館, 『武田龍精博士退職記念論集:科学時代における人間と宗教』	151-168.
8	科学技術文明と安全問題——絶えざる課題としての全人・全生問題——	単著	2010年3月	法蔵館, 武田龍精編『人間・科学・宗教 ORC 研究叢書9 核の時代における宗教と平和——科学技術のゆくすえ』	288-310. (2005年12月8日公開講座会を加筆修正)
9	震災と安全の思想(終章)	共著	2012年	ミネルヴァ書房, 関西大学社会安全学部編『検証 東日本大震災』	279-300.
10	現代日本社会と安全の意味(1章)	共著	2013年	ミネルヴァ書房, 関西大学社会安全学部編『事故防止のための社会安全学』	3-24.
11	対面授業でのS-maqsを活用した双方向授業の準備から実施まで(第16章)	共著	2014年	関西大学, 大学生の学びを育む学習環境のデザイン——新しいパラダイムを拓くアクティブ・ラーニング——	冬木正彦・辛島恵美子・岩崎千晶、:岩崎千晶, 271-282.
12	原発災害と安全の思想(第13章)	共著	2016年	ミネルヴァ書房関西大学社会安全学部編『東日本大震災復興5年目の検証』	271-289.
13	食べ物の安全の考え方とその評価の仕組み(8章)	共著	2016年	すいれん舎, 榎原正澄編『食と農の環境問題』	120-135.
14	Nuclear Plant and Safety (Chapter 14)	共著	2017年	関西大学社会安全学部編, The FUKUSHIMA and TOHOKU Disaster: A Review of the Five-Year Reconstruction Efforts	251-268.
15	科学技術の発展と人間社会の変容(2.1)	共著	2018年	関西大学社会安全学部編:社会安全学入門	16-20.
16	薬害と医療の安全(7.1.4)	共著	2018年	関西大学社会安全学部編:社会安全学入門	86-88.
(学術論文)					
1	生命倫理と安全	単著	1987年	千葉大学教養部総合科目運営委員会	174-194.
2	米国技術評価局:延命技術と高齢者	単著	1988年3月	千葉大学教養部総合科目運営委員会	181-194.
3	米国生態学会:遺伝子操作生物の計画導入——生態的考察と勧告(1)	共訳	1989年11月	生態系影響評価に関する研究会, 環境情報科学11号	64-68.
4	米国生態学会:遺伝子操作生物の計画導入——生態的考察と勧告(2)	共訳	1990年2月	生態系影響評価に関する研究会, 環境情報科学2号	47-58.
5	Biotechnology today and safety in Japan	単著	1990年3月	Advanced Marine Technology Conference Vol.3	7-10.
6	安全の意味を問う	単著	1990年6月	食料政策研究第63号	47-117.
7	人間にとっての生と死の考察と社会的コンセンサス	単著	1991年9月	J. of Seizon and Life Sciences Vol.2	33-42.
8	「environmental risk」問題における科学的不確実性と法的判断——米国社会における遺伝子加工技術の利用をめぐるルールづくりから——	単著	1993年3月	東京大学大学院法学政治学研究所修士論文集	
9	私の安全哲学——新しい学問としての安全科学と安全学	単著	1995年3月	京都大学原子炉実験所 KURRI-TR-403	75-85.

社会安全学研究 第10巻

10	安全学のすすめ	単著	1995年5月	理化学研究所主催「第1回学術研究機関の安全」	19-37.
11	(自動車) 保険に関する研究：リスク負担とリスク管理	共著	1995年7月	財道路経済研究所	小林實, 全85頁
12	将来に向けてのリスク管理のあり方 — (自動車) 保険に関する研究	共著	1997年3月	財道路経済研究所	小林實, 全113頁
13	現代リスク論と科学化の意味	単著	1997年3月	科学基礎論研究 Vol.24 No.2	37-43.
14	リスクと安全・安心の論理的関係 — 安全問題の共通基盤整備の観点から —	単著	1997年	早稲田大学理工学部総合研究センター主催「第2回学術研究機関の安全」	5-10.
15	安全と危険を問う	単著	1998年2月	第4回メタ・テクニカ・フォーラム	17-21.
16	安全問題の共通基盤 — 安全とは？ 危険とは？ —	単著	1998年6月	日本化学会関東支部主催「化学安全教育講習会：化学現場における安全の確保」	13-23.
17	現代環境問題と明日のコア・コンピテンス — 日本産業社会のコア・コンピテンスを考えるための射程	単著	1998年9月	日本鉄鋼協会助成研究報告書	全26頁
18	リスク概念の歴史の変遷とその現代的意味	単著	1998年9月	国際交通安全学会 Vol.24 No.2	63-72.
19	安全学の発想とは	単著	1998年9月	岩波書店「世界」	108-111.
20	日本鉄鋼のコア・コンピテンス	共著	1999年2月	日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学部門「鉄鋼の技術と社会動態」フォーラム第一期報告書	辛島・児玉, 70-80.
21	現代社会における安全学の必要性	単著	1999年9月	まてりあ Vol.38 No.9	637-677.
22	Liability, Responsibility, Accountability に耐え得る安全の考え方と学術研究機関の果たす社会的貢献	単著	1999年10月	大阪大学保全科学研究センター主催「第3回学術研究機関の安全」	50-57.
23	毒性物質取締法〔通称 TSCA〕全訳	単訳	2000年3月	環境庁委託研究「平成12年度世界各国の環境法制に関わる法訳等比較法調査報告書」	
24	Core Competence and Sustainable Development	単著	2000年6月	International Conference on Steel and Society; Steel Industry for Sustainable Society	346-349.
25	安全な社会のための科学技術	単著	2000年10月	日本金属学会平成12年度秋期大会：セッション「安全とリスク」	1-5.
26	安全学からみた事後調査報告データベース構築の現代的意義	単著	2000年10月	日本機械学会 M & M2000材料力学部門論文集	629-630.
27	言葉「リスク」の歴史と今日的課題	単著	2000年12月	保健物理 Vol.35 (4)	473-481.
28	安全学からみた現代的環境リスクの特徴と位置づけに関する研究 — 気候変動のリスク・コミュニケーションと対策決定過程研究 —	単著	2000年12月	J. of Seizon and Life Sciences Vol.11B	59-73.
29	リスク・アセスメント — 新しい時代の発想と抱える課題の観点から —	単著	2001年1月	日本材料学会破壊力学部門委員会 Vol.49, No.4	22-30.
30	安全学の発想とリスク概念の展開について	単著	2001年3月	日本リスク研究学会誌 Vol.12 (2)	16-27.
31	遺伝子組み換え作物出現による健康・環境への影響	単著	2001年3月	臨床栄養2001年3月号	273-279.
32	安全な社会のための科学技術とリスクマネジメントの発展	単著	2001年5月	第46.47回白石記念講座「豊かで安全な社会を構築するための安全工学 — 21世紀の社会基盤としての鉄鋼材料への期待 —」	3-31.
33	鉄鋼業と環境リサイクル — 新産業システムに向けて —	共著	2001年9月	日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学部門新産業システム創出研究会活動成果報告書	
34	豊中市の環境政策と地球環境リスクへの対応の可能性	単著	2002年2月	J. of Seizon and Life Sciences Vol.12B	81-113.
35	気候変動のリスク・コミュニケーションと対策決定過程：基礎自治体の気候変更リスクの取組状況と現代環境リスクの特徴	単著	2002年3月	環境省地球環境研究総合推進費終了研究報告書（平成11-13年度）	
36	安全対策の基礎理論：ダイオキシン問題の現代的特徴を事例として	単著	2002年5月	総合知学会誌2001年度	101-119.
37	技術と社会リスクに関する調査	単著	2002年	独)物質・材料研究機構委託研究平成13年度報告書	

辛島恵美子教授 研究業績

38	安全学からみる交通安全の仕組み	単著	2002年	開発技術学会：野田分科会平成13年度報告書	16-24.
39	1950～60年代の東海道新幹線車軸の開発とリスク・マネジメント	単著	2002年	日本金属学会 Vol.66 No.2	1236-1245.
40	交通安全教育について	単著	2003年	開発技術学会：野田分科会平成14年度報告書	60-73.
41	技術と社会リスクに関する調査	単著	2003年	独)物質・材料研究機構委託研究平成14年度報告書	全62頁
42	鉄筋コンクリート工事事例の安全対策から読み取る——21世紀型安全対策	単著	2004年 3月	日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学部会：都市基盤整備のためのスラグ利用プレハブ構造材料研究会編『鉄鋼スラグの利用拡大に向けて』	89-98.
43	技術と社会リスクに関する調査	単著	2004年	独)物質・材料研究機構委託研究平成15年度報告書	
44	EU 新化学物質規制 (REACH)	共訳	2004年 3月	平成15年度環境省請負調査「平成15年度世界各境法に関わる比較法調査報告書——各論編 Part 1 環境管理」	全243頁
45	交通安全対策基本法の21世紀型運用への期待	単著	2004年 5月	開発技術学会：野田分科会平成15年度報告書	22-34.
46	「安全」を考察する	共著	2004年 7月	(財)国際交通安全学会平成15年度研究調査報告書	全88頁
47	技術と社会リスクに関する調査	単著	2006年 1月	独)物質・材料研究機構委託研究平成13～17年度合併報告書	全272頁
48	安全を図る教育活動とその根付き——JCO 臨界事故の事例から考える——	単著	2009年 3月	2009年第157回春季講演大会社会鉄鋼工学部会シンポジウムテキスト『安全のレベルを向上させるためにはどうしたらよいだろうか？ What must we do to improve the qualities of Safety, Security and Holonomy』	29-44.
49	社会安全学構築のための安全関連概念の再検討	単著	2011年	『Safety Science Review 2010 社会安全学研究：』No.1	153-177.
50	安全学からみた東日本大震災の教訓	単著	2012年	日本リスク研究会, 日本リスク研究会学会誌21 (4)	267-274.
51	安全な社会における思想的基礎：社会安全学構築の観点から	単著	2012年	「社会安全の文理融合型大学教育と学際的研究基盤の確立」に関する研究 平成23年度関西大学重点領域研究助成研究成果報告書	3-16.
52	安全学からみる薬害と安全の関係——何を得て、何を失うのか——	単著	2013年	社会医学研究第30巻第2号 Vol.30 (2)	39-54.
53	安全・安心の哲学——言葉の概念から考える——	単著	2014年 3月	長岡技術科学大学安全安心社会研究センター, 安全安心社会研究第4号	27-38.
54	社会安全学のための安全問題関連語の再検討——母国語としての日本語が抱える潜在的課題——	単著	2016年	日本安全学教育研究会誌 Vol.9	43-50.
55	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (1)和語「あぶない」と漢語「危険」	単著	2016年 6月	危険物新聞750号	4-5.
56	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (2)「危険」と「あぶない」とその英訳	単著	2016年 7月	危険物新聞751号	2-3.
57	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (3)「危険」関連語の概念的特徴	単著	2016年 8月	危険物新聞752号	2-3.
58	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (4)日本語「リスク」の課題 (その1)	単著	2016年 9月	危険物新聞753号	
59	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (5)日本語「リスク」の課題 (その2)	単著	2016年10月	危険物新聞754号	2-3.
60	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (6)日本語「リスク」の課題 (その3)	単著	2016年11月	危険物新聞755号	2-3.
61	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (7)近代的「安全」運動のはじまり	単著	2016年12月	危険物新聞756号	2-3.
62	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (8)「安全」=safe, security]だろうか?	単著	2017年 5月	危険物新聞761号	2-3.
63	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (9)「安全」=safety といえるだろうか	単著	2017年 6月	危険物新聞762号	3.
64	「危険」「安全」に込めた思想 (連載) (10)日本の発想と欧米の発想 Safety 型対策 security 型対策の前提条件	単著	2017年 7月	危険物新聞763号	2-3.

65	「危険」「安全」に込めた思想(連載) ①日本の発想と欧米の発想 日本の「安全」「安心」の言葉の受け止め方/漢字「安」と「全」の特徴	単著	2017年8月	危険物新聞764号	2-3.
66	「危険」「安全」に込めた思想(連載) ②日本の発想と欧米の発想 日本語「安全」と和語の影響/翻訳文化としての試練	単著	2017年9月	危険物新聞765号	2-3.
67	「危険」「安全」に込めた思想(連載) ③日本の発想と欧米の発想 Holonomy 型対策	単著	2017年10月	危険物新聞766号	2-3.
68	メンタルヘルス再考——ストレスチェック制度の功罪	単著	2018年8月	日本安全学教育研究会誌 Vol.11	109-114.
69	日本社会の「安全」の受け止め方の変化:外国人編集の日本語辞典の検討から	単著	2020年3月(掲載予定)	社会安全学研究第10巻	115-148
70	日本社会の「安全」の受け止め方の変化:安全関連語における和語の役割	単著	2020年3月(掲載予定)	社会安全学研究第10巻	149-181
(口頭発表・講演)					
1	安全の意味を問う	講演	1989年6月15日	食料・農業政策研究センター	
2	安全学からみた新幹線車軸管理の特徴	共著	2002年	第51期学術講演会論文集(日本材料学会)	中村宏, 387-388.
3	規格化、標準化の功罪と21世紀型社会の条件	単著	2004年8月	日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学会Gフォーラム第二回公開セミナー「国際規格のゆくえと課題——鉄道と自動車を事例として」講演用資料	
4	交通安全対策基本法の21世紀型運用への期待	共著	2004年9月	日本鉄鋼協会第148回秋季講演大会	辛島・野田・丸川, 881.
5	教育における安全概念の再検討(1) safety, security and holonomyの区別	共著	2006年	CAMPS-ISIJ Vol.19	辛島・野田・丸川, 238(111).
6	教育における安全概念の再検討(2) 学校における安全教育の展開	共著	2006年	CAMPS-ISIJ Vol.19	辛島・野田・丸川, 864(163).
7	教育における安全概念の再検討(3) 事故原因追究の効果	共著	2007年	CAMPS-ISIJ Vol.20	Nonami, H., Hirose, Y., Ohnuma, S. & Midden, C. J. H, 221
8	教育における安全概念の再検討(4) 安全対策における事後プロセスと事故調査組織の役割	単著	2007年	CAMPS-ISIJ Vol.20	222.
9	教育における安全概念の再検討(5) エルゴノミクスとの関係	共著	2007年	CAMPS-ISIJ Vol.20	辛島・野田・丸川, 887.
10	教育における安全概念の再検討(6) リスクアセスメントとマネジメントの関係	共著	2007年	CAMPS-ISIJ Vol.20	辛島・野田・丸川, 888.
11	教育における安全概念の再検討(7) コミュニケーションの条件1:安全実績から	共著	2008年	CAMPS-ISIJ Vol.21	辛島・野田・丸川, 181.
12	教育における安全概念の再検討(8) コミュニケーションの条件2:信頼構築	共著	2008年	CAMPS-ISIJ Vol.21	辛島・野田・丸川, 182.
13	現代リスクマネジメントと21世紀型安全・快適なシステム構築の基本方針	共著	2008年	CAMPS-ISIJ Vol.21	辛島・池上・熊本・田中・野田・丸川・西野, 1014
14	現代リスク・アセスメントの特性——経験ゼロからの出発	共著	2009年	CAMPS-ISIJ Vol.22	辛島・野田・丸川.
15	変わりつつある諸条件と新時代の安全マネジメント	共著	2010年	CAMPS-ISIJ Vol.23	辛島・池上・田中・野田・丸川, 1033
16	安全教育と新時代の安全マネジメント(1)リスクホメオスタシス	共著	2010年	CAMPS-ISIJ Vol.23	辛島・池上・田中・野田・丸川, 1034
17	安全・安心について——安全教育の基礎——	講演	2011年2月	ICT人材育成講習会(横浜市泉区役所)	

辛島恵美子教授 研究業績

18	震災と安全の思想	講演	2011年5月	年度社会安全学セミナー講演録	1-37.
19	安全学から見た安全と安心	講演	2011年12月	NPO 法人 BigMap 総会（横浜市中区区民活動センター）	
20	教育的配慮からの安全概念の再検討	単著	2012年	第11回年次研究大会講演集（科学技術社会論学会）	
21	火を使う心、火を消す心、安全を願う心	講演	2013年1月	平成24年度大阪府防火クラブ大会	
22	心がつくる体内万能薬と気の効用	講演・実践	2013年11月	関西大学高槻ミューズキャンパス公開講座『気をコントロールする』	
23	安全問題における翻訳と異文化理解の役割	単著	2013年	第12回年次研究大会予稿集2013（科学技術社会論学会）	156-157.
24	安全・危険概念分析から見える現代日本社会の高度科学技術制御の課題	単著	2014年	第13回年次研究大会予稿集（科学技術社会論学会）	84-85.
25	防火対策を考える：命を守る三タイプの対策	講演	2015年2月	吹田市防火講演会（吹田市消防本部・吹田市防火連合会主催）	
26	医食同源の思想から見た現代食品問題	講演	2015年3月	食の安全と健康に関する公開講座（日本食品安全協会、関西大学社会安全学部、健康食品管理士会近畿支部共催）	
27	医療と医薬品と安全	講演	2015年6月	震災対策技術展	
28	医療と医薬品と安全	講演	2015年6月	関西大学社会安全学部連続セミナー：安全・安心な社会を創り出すための社会安全学第10回担当	
29	死をめぐる対応分類（安全学）から見てくる原発震災の課題	単著	2015年	第14回年次研究大会講演（科学技術論学会）	136-137.
30	原発災害と安全の思想	講演	2016年7月	関西大学社会安全学部連続セミナー：東日本大震災 復旧・復興5年の検証 第14回	
31	社会安全学のための安全問題関連語の再検討——母国語としての日本語が抱える潜在的課題——	講演	2016年8月	第11回日本安全学教育研究会（特別講演(9)大阪大学医学部銀杏会館）	
32	安全の思想から見た安全概念錯覚の経緯	単著	2016年	第15回年次研究大会予稿集（科学技術社会論学会）	10-11.
33	安全と安心の哲学——言葉の概念から考える ver.2	講演	2017年2月	社団法人日本電機工業会原子力品質保証特別委員会（電気工業会館）	
34	日本語「安全を図る」と英語「take a risk」の異同の考察——翻訳文化の抱える課題	単著	2017年	第16回年次研究大会予稿集（科学技術社会論学会）	120-121.
35	現代社会における「こころの病」のグレーゾーンとその対策	講演	2018年6月	尼崎工業会平成30年度安全衛生研修会	
36	メンタルヘルス再考——ストレスチェック制度の功罪——	講演	2018年8月20日	第13回日本安全教育研究会（金沢大学医学部記念館）	
37	メンタルヘルス対策の課題——労働者と企業の安全の観点から——	単著	2018年12月	第17回年次研究大会予稿集（化学技術社会論学会）	98-99.
38	外国人“依存”社会がもたらす公衆衛生リスク	講演	2019年6月	2019年度大阪連続セミナー：危機の時代 第5回	

以下、フリー記入

(主な所属学会及び社会的活動等)					
科学基礎論学会（1982年度～2008年度） 日本鉄鋼協会 科学技術社会論学会 日本安全教育学会 経済企画庁国民生活審議会委員（1991年度、1992年度） 神奈川県バイオテクノロジー環境安全対策検討委員会委員（1992年度、1993年度） 神奈川県化学物質環境保全対策委員会委員（1993年度～2005年度） 神奈川県環境審議会委員（1996年度～2003年度） 和歌山県防災会議委員（2013年度～現在） 和歌山県石油コンビナート等防災本部本部員（2017年6月30日～） 公益財団法人 生存科学研究所 評議員（2005年5月～現在）					

